

〔大宜見洋文議員 登壇〕

○4番 大宜見洋文君 まずは4点質問を読み上げてから、再質問から一問一答でよろしくをお願いします。質問1. 児童生徒が抱える様々な課題の解決に必要な保幼小連携の状況はどうか。(1) 近隣市町の保幼小連携の状況はどうか。(2) 本町の連携が進まない原因、課題は何か。

質問2. 自治会加入の課題について。(1) 第四次南風原町総合計画の目標設定後の加入率の推移はどうか。(2) 目標達成ができなかった反省、課題は何か。(3) それを踏まえて第五次南風原町総合計画を策定後どういう事業を進めるか。

質問3. はえばる大学(仮称)について。(1) まちづくりの主体となる人材が不足している課題があると感じるが町長の認識はどうか。(2) はえばる大学(仮称)が育成の場になると思うがどうか。

質問4. 国民健康保険の課題について(1) 本土と沖縄で国保税額に差があるとのことですが、その理由と差額はいくらか。(2) 保険税の増額もあり得るとの前の一般質問の答弁から、町民への説明の機会が必要ではないか。以上、よろしくお願いします。

○教育長 赤嶺正之君 大宜見洋文議員の質問事項1(1)のご質問にお答えします。南城市と豊見城市と与那原町は、保幼小の交流会、また糸満市においては平成28年度から沖縄県教育委員会研究指定を受けて保育園児、幼稚園児、小学生が一堂に会して昔遊びを行うなどの取組を行っております。(1)と(3)のご質問につきましては、関連いたしますので一括して答弁いたします。小中学校空調設備につきましては、平成30年度から32年度までに整備完了できるように新年度予算及び実施計画にて計画をしまいたいと考えております。

(2)のご質問にお答えいたします。本町におきましては、幼稚園児と小学生、幼稚園児と中学生、小学生と中学生が授業、行事などを通して連携を行っております。また、保育所、幼稚園、小学校との保幼小連携を行っております。

質問事項3(1)のご質問にお答えします。本町には、学校応援隊はえばるや町内小中学校の読み聞かせ等様々な分野においてボランティアで活動されている方々が多くおり、人材が不足しているとの認識はございません。

(2)のご質問にお答えします。はえばる大学は学びの場と考えております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項2つ目の自治会加入の課題について(1)にお答えします。第四次総合計画策定時において平成17年度の自治会加入率64パーセントを平成28年度

に70パーセントとする目標としていました。しかし、平成29年時点で44.76パーセントとなっており目標達成に至っておりません。

(2)についてお答えします。自治会加入率の減少は、価値観の多様化、コミュニティ意識の希薄化や社会情勢の変化等様々な要因があると考えています。特に個人の自由が尊重される今日において、自治会への関心を持ってもらえるような個々人の意識をどのように変えていくかが今後の課題と考えています。

(3)についてお答えします。現在、町の取組としては、転入者へ自治会加入のメリット、その他自治会情報資料の配布や各自治会へ自治会加入促進横断幕の提供を行っています。また、先進地への視察研修に対する補助や区長会場で自治会運営における課題について協議を行っています。今後も区長会と連携して自治会加入促進について取り組んでまいります。

質問事項4つ目の国民健康保険の課題について(1)にお答えします。本県の国保は県民所得が低いなかにおいて、所得が100万円未満の世帯が全国平均51パーセントに対し沖縄県67.9パーセントと低所得層の加入割合が多いことが要因の一つであります。また、1人当たり保険税は平成27年度で全国平均9万2,124円、沖縄県平均が6万2,793円で差額は2万9,331円となっています。

(2)についてお答えします。自治体の税率等の改定については、議会での議決後に広報等でお知らせしていくものと考えます。以上です。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 登弁、ありがとうございました。それでは、質問1から一問一答でお願いします。南城市、豊見城市、与那原町は交流会をもっていると、糸満市も保育園児、幼稚園児、小学生が一堂に会して昔遊びを行っているという答弁をいただきましたけれども、この質問のきっかけとなるのが先日、認可保育園の園長さんと小学校の校長先生とコーヒーを飲みながらざっくばらんにお話をする機会がたまたまありました。本町での保幼小連携がまだ代表者レベルだということでした。しかし、今年度、いつの一般質問だったか連携して進めていくという答弁があったと思っていますが、あれからかなりたっているのですがどうしてこんなに遅いのかと思っています。校長先生のお話では隣の南城市でのお話でしたけれども、すでに小学校区での連携が進んでいて会議も頻繁にということ意見交換会なのか中身は詳しく分からないのですが頻繁に開催されているとのことでした。園長、学校長双方とも、連携を進めるために早めに開催して欲しいという趣旨の意見をいただきました。私も本町の動きが遅いのではないかと感じたため、今回も質問します。いただいた答弁は、主に児童生徒間の交流についてで、そちらの連携も大事だと思いますけれども、それよりもっと緊急性と言いますか悩みを抱えている児童生徒は待たないで、その対応のためには早めに進めていってもいいのではないかと。その子が保育園児のこ

ろはどうだったのか小学校の現場が情報を欲しいと、保育園時代に問題を抱えていたあの子が小学校に上がってしっかり生活できているか、環境に順応しているか、保育園の先生方はその検証が新しく来る次の園児の対応のためにもその情報が欲しい。そういう機会を双方が望んでいるとコーヒーを飲みながら感じました。専門の方々、こども課でも早期発見・早期対応が小中学校へ上がった時に効果があるとの認識だと自分は感じているのですが、こども課はどうでしょうか。保育園で課題を抱えている子どもたちへの対応が小学校に上がって効果を上げると、今までの一般質問でもそういう認識だと思うのですが、こども課の皆さんはいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 議員ご質問に関しましては、例えば学級編成の資料として幼稚園からそういった情報をいただいているという状況がございます。それから、幼稚園を経由しないで直接小学校に入学する児童もいるのですが、それも同じように保育園から情報をいただいて学級編成の参考にしている現状がございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ではどこかで話の食い違いがあったのでしょうか。ただ、やはり具体的に子どもの名前も出ていたので、連携が遅れているのではないかと感じましたのでこの質問をしているのですけれども、ではすでに連携して保育園、幼稚園との意思疎通はできていると思っていいいのですか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 課長からも答弁があったように、保育所から幼稚園に行くとき、また保育所から小学校に行くとき、この園児、児童についての情報共有はしております。それを基にクラス編成を行っております。これがないと厳しいですから。ただ、今後もより良く連携していくように取り組んでいる真っ最中であります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 分かりました。情報が小学校現場にはいきました、そのあとどうなっているかが伝わってきていないということなのかな。今の答弁では小学校現場ではその得た情報で対応していると、ただそこでの課題が子どもにあつて、もしかしたら情報漏れがあるのかということの問合せだったのかなと、このへんはできていないわけですね。

例えば保育園のほうに今現在どうなっているというフィードバックは来ていないわけですよ。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 先ほど答弁したとおり、園児についての情報共有は十分できていると認識しています。また、この成長においては、入園式等新入園児については園長に案内をかけるなど情報共有をしているところであります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 分かりました。僕も情報不足で、再調査してみたいと思います。以上でこの質問は終わります。

質問2にいけます。自治会加入の課題についてですが、先月15日に行われた区長・自治会長会との意見交換会で、第五次総合計画もいよいよ実施ということもあり、質問に取り上げました。区長・自治会長会の皆さんから自治会長のなり手がいないと、自治会加入率も低下しているとの話と、実際に提供されたデータの数値に非常に衝撃を受けました。このままでは活動が維持できなくなり将来に不安を持っていると、話しを聞いているなかではもしかしたら自治体の市町村合併のような自治会の合併・統合など再編に向かわざるを得ない状況もあるのかと不安になりました。今年度の第1回定例会で町長が述べられた施政方針に、地域活動の現状と課題を意識して自治会との連携を図っていくとの再確認で今回も質問に取り上げました。先ほど再質問で上げようかどうしようか悩んだのですが、役場職員の自治会加入率というのは出せるのでしょうか。教えてください。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 職員に限って自治会に加入しているかどうか調べたことはないのですが、全職員に聞くことは不可能ではありません。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 個人情報ということになるのでしょうか。職員採用の評価基準などに自治会加入の要件は入っているのでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 難しい話をしますと職員採用で例えば自由に選択できるものとか宗教とか物の考え方、それは入れてはいけなくなっています。なぜかと言いますと、自治会加入は法律で強制されてはいませんので、選択肢があることだと、今の現実、世の中の反応を見ているとそういうふうに感じますので、自治会加入が直接どうか反映できない事項だと思います。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 なかなか難しいことが分かりました。第四次総計以降の加入率が下がっている理由として、やはり転入がかなり増えていることもあるとは思いますが、現在、地元の自治会でも高齢化が進んでいてなかなか自治会費も払えなくなっていると、そういうなかでは人口が伸びているこの伸びた人たちをどう自治会に誘導していくかがかなり課題になっていると思います。答弁でもなかなか具体的に出せないと受け取れるのですが、今後、その取り組み方について、先進地視察も区長会で行っているようですがその視察をされてどのような感触なのか分かりますか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 昨今の区長会の大きなテーマと言いますか自主防災組織を取り上げることが多いです。ただ、そのなかでやはりこれも自主防衛組織ですので、どうしてもおっしゃる加入率は重要なベースにはなると思います。視察先の自治会長さんとはそういった会話は当然生まれていると思っています。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 町からの加入世帯へのお得感と言うかインセンティブと言うかそういう設定も必要かと思っているのですが、そういう考えはありませんか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 行政がやる様々なサービスというものではなくて施策ですね。これを自治会に加入しているかしていないかはテーマが別かと思います。全住民を対象に等しく行うのが行政の仕事だと思っています。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 1件アイデアがあったのですが、近い将来、ゴミ袋の価格変更がありそうだと、もしそういう機会があるならば、その自治会に対しての割安な設定とか、自治会に入ってもらうことで地域の安心・安全につながるという目的が全町民に向かうわけですから、差別するという話ではなくて、良い方向に持っていくような何かそういう広報・指導用に無料で自治会にごみ袋を配ったりしてそれを効果的に使えるようなシステムなどは可能でしょうか。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 部長からもありました、自治会に加入している人は優遇するようなことをするとむしろこれそのものが問われるものだと思っております。自治会加入が少なくなっているのは、字の魅力、加入した人たちにはどういった恩恵がある、加入していなければこのような弊害があるというような何か行動を起こすことも大事ではないか。それと以前、私も津嘉山の評議員としてやっていた時、字の自治会加入促進のために区長さんだけに頼るのではなくて議員の皆さんも率先して、字の評議員も一緒になって加入促進をやった経緯があります。また滞納した人たちの所に回った経緯もあります。ただ区長さんだけに任せる、自治会長さんだけに任せるのではなくて、議員さんからむしろ提言して、私たちの自治会に加入促進するために私たちもやるから評議員も一緒に皆でこれを年に何回かやってみましょうかと、この提言が一番よろしいのではないかと思います。更に、加入している人たちに対して字の防犯灯、そして冠婚葬祭の時、これも字費の中に入っておりますのでそれで加入している人たちに幾らとか、入っていない人にはこういう恩恵がない、入っている人たちは常日頃から積立みたいにされております。こういう何かテーマをもって皆さん方でやっていくことも大事ではないかと感じています。私たち自治会に加入している人、していない人を区別することに対しては、行政が公平さを欠くことにつながりますので、ぜひ議員さんには字に帰って字宮平について評議員も一緒に皆で促進してみようということも一番大事ではないかと思っております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 町長自らお答えいただき、ありがとうございます。行動を起こす責務が私たち議員にもあるのだと感じています。それと区別する、差別するという話ではなくて、大震災が起きた地域ではやはり相互扶助、お互いに支え合った結果で被害も少なく済んでいるという僕らの第四次総計の際は阪神・淡路大震災の頃でしたので、やはりデータが出ているというそういうものをもう少し町民に知らせる機会が欲しいというのですか、安心・安全が空気みたいにタダだと思っている状況ではなかなか自治会にも加入してくれないのかなという難しい話なのですが、こういうテーマで黄金ホールを使っ

を巻き込んだ意見交換会をもっていければと思ひまして次年度以降の自分の課題にもしていきたいと思つてこの質問を終わります。

質問3。これは先ほどにもつながる内容です。住民同士の意見交換会、町の職員と他の社会団体の職員たちが皆一緒に膝を交えていろんな話ができた第四次総計、第五次総計の成果・実績は結構良いものがあったと感じていますのでこの質問を再度取り上げました。質問2でも区長、自治会長のなり手不足、また区や自治会での児童委員、民生委員のなり手不足、PTA会員も然りです。その課題解決に町民の人材を発掘する、そして社会団体のリーダーとなる人を育てるプログラムが必要であること。それにはこれまで開催された第四次・第五次総合計画策定時の住民会議の実績が良い例だと思つています。そういうプログラムが必要だと感じて、はえばる大学の開設を促しているつもりです。できれば城間町長の下で実現していただきたかったのですが、そういう気付きの場の開設によって町民自らが町内の課題解決に向かうシステムを創ること、それが引いては町の各種団体の人材育成にもつながることは第四次の照屋区の民生委員の上地さん、観光協会の藤原さんや勝議員や僕らの活動、最近では第五次総計の住民会議の会長であった方が、それまで自治会に加入していなかったのですが住民会議の議論のあとに地域連携の大切さに気付いて自治会に加入したと聞きました。残念ながら彼は仕事の都合で東京に戻ってしまいましたけれども、それでもこういう実績が多くあることは住民会議をモデルにしたはえばる大学がこれから南風原町を支える人材育成の場となることを示しているのではないかと。そのへんに関して城間町長にこれまでできなかったこと、今後どうしていったほうがいいのかお気持ちがあったらいただきたいのですがございますでしょうか。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 はえばる大学の必要性を私は感じております。これに対しては、いろいろな角度、広角的な視点から学ぶ機会が増えてくるし、はえばる大学というのは大事だと思つています。ただ、人材不足の課題があるとおっしゃっていますが、私としては学校、支援、ボランティアにおいては、不足しているのではなくて南風原町にはたくさんの人材が埋もれていると、また、町、学校、支援、ボランティアでたくさんの方々は今行動を起こしております。毎年、中央公民館でこの1年間を検証するなか、いろいろな事業経過等を見ても農業から学校、昔遊び、料理、歴史、全体的にご先輩の皆さん方から若い人たちまで自分が持っている力を子どもたちに還元しようという方がたくさんいらっしゃいます。また、社会経験を重ねリタイアされた方々も大いに活用することも大事だと思つておりますが、その経験豊富な方々でもまだ市民大学ではいろんなものを得るチャンスになるのではないかとと思つております。例えば学校の教員であれば農業の体験、花植えの体験、動物の体験とか料理の体験とか、大学があるなかにおいて一つの事業につながっていくのではないかと、これは大事だと思つています。ただ、人材としてはたくさんいらっしゃ

る。保育園、幼稚園、小学校、中学校の皆さん方、また農業青年を中心になってサポートしてもらって体験をすることもやってもらっており人材はいらっしゃいますが、市民大学は先ほど申し上げた広角的視点から大事だと感じております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 たびたびの発言、どうもありがとうございました。教育委員会に投げられているので答えとしてもここに行き着くのだろうなと感じてはいました。ただ、やはり予算がないなかでも、なんとかこれをやろうと思えば他の課とも連携していけば光が見えるのではないかと考えています。そのヒントが昨日の赤嶺奈津江議員の質問への答弁です。こども課からでしたか、地域福祉計画を住民参画で行うという答弁がありました。そういう住民参加型のものが、はえばる大学の講座の一つにもなるのではないかと思います。そのへんに関してこども課、民生部の考え方はいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 第四次総合計画の段階から、行政が取り組む部分を協働で取り組んでいくということのできるのところから取り組んでおります。昨日、こども課長より答弁のありましたわれわれの主管するちむぐるプラン、第2次のちむぐるプランについても第1次と同じように住民参画にして協働で作成していく。そういった町の計画策定にあってはそれぞれ公募で委員を募集して町民の参画をお願いし、共にその計画策定を担っていただいているところでございます。それを大学というような位置付けであればそれでもよかろうと思いますし、引き続きわれわれはこのようなかたちで計画づくりなど取り組んでいきたいということでございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。できれば一緒にやってもらったら予算もそんなに多くかけずに済むのではないかと。どうやったら実施できるのかそのへん発想を転換してもらって次年度以降、私が町議員を目指すきっかけをいただいたのがその当時の第四次総合計画の住民会議で、町長の肝いりで行っていただいたお蔭で自分はここに居られるのだと感謝に絶えません。しかし、そのことからはなかなか次につなげていない。人材はいっぱいいるのだけれども、なかなかリーダーになる人が生まれてこない。これから少しずつ出てくるのかなというのが町長の答弁の中からの感じなのですが、それでもやはり次年度に町長の後を引き継ぐ町長にもぜひ人材育成のためはえばる大学の事業を進めてもらいたいということでこの質問を終わります。



続いて最後。なかなか難しい国民健康保険の課題についてですが、質問の趣旨としては前回の一般質問とその後の全員協議会での本町中期財政計画素案の説明を受けて、説明の中の繰上充用、扶助費、特別会計の繰出金などの行政用語やそのお金のやりくりなどなかなか難解で、更に保険税の値上げの可能性もあると前回の一般質問登弁にもありましたことから町民への課題の周知の必要性があるのではないかと。マイルドに一度チラシで送っている内容だけではなかなか気付かない内容もあると感じましたので、今回も質問します。

(1)の件ですが、全国平均、沖縄平均と出ていますけれども、南風原町との差がこの金額でよろしいのでしょうか。

○議長 宮城清政君 国保年金課長。

○国保年金課長 町田美貴君 お答えいたします。こちらで示しているのが、確かに全国平均、沖縄県の平均を書いているのですが、南風原町は沖縄県の平均6万2,793円に対して6万3,717円となっております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 先ほど事前にいろいろ話を聞いた時、金額の出し方も市町村で違うということでした。出した金額が町民の国保の支払分を賄っているのかどうか。それに対して国からの交付金も入ってくるとかいろいろ数字があつてなかなか理解し難かったですけれども、実際に町が町民から受け取った税金プラスをどれぐらい出しているのかも出せますか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 まず国保は加入者の相互扶助の精神に則って運営される社会保障制度の1つです。その係る医療費あるいは保健事業費に対して国からの公費が入ります。その公費を差し引いて足りない部分を税で賄うというのが国保の仕組みです。しかしながらそれを全て税でとなるとまた負担がかなり大きくなり過ぎる。市町村によってもそれぞれ事情がありますが、そういうことになります。本町においては、まずこれまでの累積赤字が約14億近くございますので、公費を充てても、町からの繰入れを入れても足りない部分が14億あることになっているわけですので、これは確かに前期高齢者医療制度が始まってからの影響が一番の要因ではありますが、本来でしたら足りなくなる部分は税で賄うというのが国保の考え方ではあります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 9月定例会の答弁でも14億、今回の全員協議会での説明の際には16億を超えるということで、1年間で2、3億円近い増加があるということですね。これはそのまま伸び続けてはいかない、前期高齢者が増えていくから負担は減るという流れはあるのですが、やはりこれだけの税金が投入されていて、一般会計からも肩入れが生じてきている現状では、町民にももう少し危機感を感じてもらわないといけないと思うのですね。いろんな町民の要望もあったりして、あの予算を付けてくれ、この予算を付けてくれというなかで執行部の皆さんがやりくりをしているのが見えるのですが町民がなかなか理解できていない現実がある。こういう場合にどうやって知らせるのか。チラシだけではなかなか難しいのではないかと考えているので、方法として他に考えられるのでしょうか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 本町に限らず県内の市町村の国保の状況はたいへん厳しい状況ではありまして、その状況を町民の皆さんにどのようにお知らせするかですが、そういった節目節目と言いますか例えば決算終わった時点での広報誌あるいは『ハイさいよ～さん』ができた時点の節目とか、そういったタイミングを見て広報誌等でのお知らせとなると考えます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 だいぶ前に旧中央公民館があったところに開催された、男女共同参画事業のイベントだったかと思いますが、町民が主体となって開催されたイベントがあったのですね。それがとても印象に残っています。ああいう町民が自ら意見を交換すれば、先ほどのはえばる大学、その前の自治会加入の件でも町民と一緒に考える場が欲しいと話しましたが、もしかしたら保険税の値上がりがあるかも知れないと、そういう話をテーマに町民集会、意見交換会の場が作れないかと思うのですがいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 健康づくりをテーマにした講演会とか講習会、そういった場で国保のみならず社会保障のなかでも医療費の増大は保険税にも影響するのだというような部分でのつなぎとはなるかも知れませんが、話しはできるかも知れませんが、税率について町民向けに開催して税率についての議論をする場の設定は考えておりません。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 なかなか難しい話なので、わざわざそういうものに足を運ぶ町民もいないかも知れないというイメージもありますけれども、何かきっかけの場が欲しいと思いました。以上で質問を終わりますが、最後に昨日の照屋仁士議員一般質問の前の青年会の活動について、県外へ行って棒術を披露してくれた青年会の活動についてもありました。ああいう青年会活動も人材育成、リーダー育成をする貴重な団体であることが確認できました。9月の定例会を終えて先月の11日から12日、南風原町女性会の視察研修にマイクロバス運転のお手伝いをさせていただき、活動の一端を拝見させていただきました。東部消防の出初式や町の体協陸上競技大会でのボランティア活動は知っていましたが、地域での高齢者見守り訪問など日ごろから地域の安全・安心への地道な活動をしていると知り、遅ればせながら感謝の念に絶えません。教育長の答弁のとおり、南風原町に人材はいっぱいいると実感します。しかし、町内の課題からその人材同士の連携が弱いのかも知れないかということも町長の答弁からも実感しました。また、政務活動として今年度も広域職員の研修に台湾視察研修も同行させていただきましたが、当地のMICE施設の素晴らしさもそうですけれども、そこで再確認できたのはやはり人材育成です。向こうで働いているスタッフはバイリンガル、2カ国語は普通に喋れる人たちです。彼らが育った小中学校の状況を聞きますと、統合して一極集中と言うのが、学校をいっぱい造るよりも大きな学校を1つ造ってあげるほうが子どもの教育には一番のサービスになるということで、タクシーでも安くつくぐらい高度な教育ができるのだよと、僕が30年近く前に仕事で台湾に行っていた時に聞いた話を今回行ってやはりそういうことだと確認できました。人材育成がやはり何よりも先に来るのではないかということを実感しています。今回も医療費の現物給付の要請に県に伺った際にも地元の県議がないことのマイナス面を痛感したことと、今回の衆議院選挙で地元の方が衆議院になって更に選挙運動ができたその中身もやはり人材育成に効果があると実感しました。こういう人材を育てることが南風原町にとって一番大切だと感じていますので、ぜひ重ね重ねですが城間町長から次の町長になられる方にも理解していただいて、はえばる大学の開設を促す意味でも、これから何回でも訴えていきたいということで質問を終わります。